"Rama Bending the Bow", Bangalore, India, 2016 Black and white C-print hand-painted by Jaykumar Shankar

vasantha yogananthan
the promise

The Evening Before, Janakpur, Nepal, 2016 Black and white C-print hand-painted by Jaykumar Shankar

Party Field, Janakpur, Nepal, 2016

"Lovebird", Ramtek, India, 2015

"Boy Playing Girl", Janakpur, Nepal, 2016 Black and white C-print hand-painted by Jaykumar Shankar

"The Promise", Janakpur, Nepal, 2016 Black and white C-print hand-painted by Jaykumar Shankar

"Seven Steps", Janakpur, Nepal, 2016

Interview with Vasantha Yogananthan

歴史的物語から、インドの現在をめぐる愛の章

マーク・フューステル＝文　Text: Marc Feustel

『The Promise』は、ヴァサンタ・ヨガナンタンが、紀元前300年頃にサンスクリット語で書かれた抒情詩『ラーマーヤナ』をテーマにインドの複雑な現代社会にアプローチする、現在も進行中のプロジェクト「A Myth of Two Souls」の第二章である。2016年5月の第一章『Early Times』刊行を皮切りに、2019年までに7つの章で構成される物語をそれぞれの章ごとに一冊の写真集としてまとめていく予定だという。「7冊それぞれに明確なテーマがあり、『The Promise』のテーマは愛。インドで夫婦であることの意味や、夫婦が交わす約束とは何なのかといった問いを掘り下げている」とヨガナンタンは話す。

ヒンドゥー教の聖典のひとつである『ラーマーヤナ』は、インドの王子ラーマが、愛する妻シータを敵であるラーヴァナ軍の手から救うため、インドを北から南へと旅する物語だ。「2013年に要約版を読み、物語とインドが抱えるさまざまな社会問題との関連性に興味を持ち、この国についてのオープンな対話を創出する糸口になるのではないかと感じた」と、ヨガナンタン。

その後、彼はインドへ何度も足を運び、『ラーマーヤナ』を軸とした作品づくりをスタートした。しかし最初の2回の訪問では、古代インドの物語を連想させるイメージを見つけ出すことができず落胆したという。「3回目の旅の途中で、オリジナルの物語と現代インド社会をつなぐには、演出を加えることが必要だと気付いた。それが本シリーズにおける本当の意味でのスタート地点となった」。それからヨガナンタンは、インド人のアシスタントとともに、毎朝路上でキャスティングを行い、彼の大判カメラの前で『ラーマーヤナ』の一節を演じてくれる地元の人々を探し求めた。

ヨガナンタンは、被写体に彼のヴィジョンをそのまま演じることを求めることよりも、彼らとのコラボレーションを重要視した。「被写体には、多くの自由を与えるようにしている。最初に『ラーマーヤナ』の一節において、どのキャラクターを演じてもらうのかじっくりと話し合うが、どのように演じるかは彼らに任せる。このプロセスにはある種のストリートシアターの要素があり、協力者の想像力に重きを置いているんだ」

本作を成功へと導く大きな理由は、『ラーマーヤナ』が、いまでもインド人の生活の中に溶け込んでいる点にある。リサーチを通して、大衆文化からハイカルチャーまでインド人の日常のあらゆるレベルにおいて、『ラーマーヤナ』が存在していることが浮き彫りになった。ビデオゲームや漫画、絵画、80年代のTVドラマ（インド史上最高の視聴率を記録したシリーズ）、Snapchatのスレッドにさえも『ラーマーヤナ』は登場するのだ。「ヴァージョンが多様にあるということは、『ラーマーヤナ』にはさまざまな解釈があるということ。『ひとつの“ラーマーヤナ”はない、何千もの“ラーマーヤナ”があるのだ』というインドのことわざもある」

物語がさまざまな語り手によって受け継がれてきたことから、ヨガナンタンは、本シリーズも自分一人では成し得ないという考えに行き着いた。「『ラーマーヤナ』を主題とした作品を作るインド人アーティストたちとの対話を作品に取り入れて、物語の解釈の多様性を示すために、複数の人々によって語られるひとつのストーリーにしたいと思ったんだ」

登場人物を演じる地元の人々とだけでなく、「A Myth of Two Souls」では、さらに二つのコラボレーションが行われている。ひとつ目は、19世紀半ばまでその歴史を遡る伝統的な手彩色写真の技法を学んだ画家との共作。モノクロでプリントした写真を画家に送り、自身の解釈で自由に彩色してもらった。「イメージの属する時代が曖昧になり、本作が内包するタイムトラベルの感覚を高めてくれている」と、ヨガナンタン。ときにハイパーリアリスティックで、鮮やかな色が施され、息をのむほどに美しいイメージが生まれた。『The Promise』は、ヨガナンタンによるカラー写真、その土地らしさのあるファウンドイメージに加え、彩色写真15点を収録している。異なるヴィジュアル要素を織り込むことで、本書はさまざまな解釈が混在している感覚をはっきりと伝えてくれる。

二つ目は、インド人小説家アルシャ・サターとのコラボレーションだ。一連のイメージを送ったことから対話が始まり、本シリーズのために現代版『ラーマーヤナ』を書き下ろしてもらっている。「原作は男性の視点から書かれているが、本作では一人称かつ一人の女性の視点から語ることにした」。イメージの合間に差し込まれたテキストは、写真集の中で句読点のような役割を果たし、何世紀にもわたって受け継がれるストーリーに、さらなる奥行きをもたらしている。

Vasantha Yogananthan／1985年生まれ。2014年にフリーランスフォトグラファーとしてのキャリアをスタートし、マグナムが主催する「TOP 30 UNDER 30」に選出される。同年、パートナーとともにChose Communeを設立し、これまでに自身の写真集『Piémanson』『Early Times』『The Promise』を刊行している。2017年には、ICP Infinity Awardの新人賞を受賞した。

Marc Feustel／パリを拠点とする、インディペンデントキュレーター、ライター、編集者。「日本の自画像ー写真が描く戦後1945-1964」（世田谷美術館）、『Eikoh Hosoe: Theatre of Memory』（Art Gallery of New South Wales）などのキュレーションを手がける。また『European Photography』『The Eyes』『Foam』など、数々の写真誌へも寄稿する。